

地域交通の再構築に向けて

地域活性化起業人として交通に精通した小川さんを委嘱 (7/6)

市は、総務省の制度を活用し、地域交通の課題解決をITやデータ活用で支援する東京の企業「マーステックジャパン」の小川亜紀さんを、「地域活性化起業人(副業型)」として委嘱しました。

現在、地域コミュニティバスは、利用者の減少や運行経費の上昇などで継続運行が困難な状況にあり、各地域で再編が求められています。路線バスもまた、運行が難しくなっています。

こうした中、小川さんのサポートを得ながら、地域コミュニティ交通推進方針見直しや、公共ライドシェアを含めたコミュニティ交通の再編に向けた関係者協議など、地域交通課題の解決に向けた取組を進めています。



昨年度は、薦原地域の公共ライドシェアの支援に関わっていた小川さん。「地域の皆さんの行動力に驚かされた。持続可能な仕組みを一緒に考えたい」と抱負を語りました。

名張の魅力を自分らしい言葉で

観光ナビゲーター育成講座 (7/20)

報酬を得ながら名張の魅力を発信する「観光ナビゲーター」育成講座に15人が参加しました。初回となる7月20日は、「ナビゲーターとは何か」をテーマに、心に響く言葉で地域の魅力を伝えること、そして、地域活性化に貢献する視点が大切なことなどについて学びました。アスパでの座学の後、はなびし庵や栄林寺など初瀬街道沿いを巡りながら、案内のポイントや伝え方を実践的に学びました。

全4回の講座を通じて、名張の魅力を自分らしい言葉で伝えられる「観光ナビゲーター」を育成し、来年4月以降の活動開始を目指します。



はじける笑顔のおもてなし

ばりフェス&ダムグランフوند 2026 (7/19)

市民発のイベントとして定着してきた名張の魅力を発信する「BALI NABARI fes (ばりフェス)」と、ダムを巡る自転車イベント「ダムグランフوند」が、7月19日、市役所市民広場を中心に同時開催され、2,000人が熱気あふれる会場を満喫。名張市や伊賀市、宇陀市、山添村、南山城村の名所を巡って野菜などが当たるデジタルスタンプラリーも、それぞれの主催者が協力して実施しました。

この2つの催しを支えたのは、合計107人ものボランティアの皆さん。ダムなどに設けられた休憩所で特産品を振る舞ったり、コースの案内や安全確保をしたり。ばりフェスの企画や準備に関わってきた高校生も多く、物産品の販売や会場受付、ゲームやステージ運営などに張り切って取り組んでいました。



少子化の中、小中学校のあり方を考える

「未来のよりよい学校の在り方検討審議会」の初会合 (6/25)

少子化を踏まえた子どもの学びや育ち、市立小中学校の適正規模・配置などについて話し合う「未来のよりよい学校の在り方検討審議会」の初会合が6月25日に開かれました。

会合では、市内小中学校の児童生徒数が平成3年度の10,762人をピークに現在は5,209人と半減。10年後には3,134人に減少する見込みが示され、委員からは「統廃合ありきではなく、子どもにとって最善の教育環境を考えたい」などの意見が出されました。

審議会は全8回開催し、保護者や教職員などへのアンケートを踏まえながら議論を深め、来年10月を目途に基本計画案が市に答申される予定です。



審議会は、学識経験者や地域づくり組織の代表者、小中学校の校長、保護者代表など13人で構成し、三重大学教育学部の園部友里恵 准教授が委員長に選任されました。

子ども・若者の居場所がオープン

「Naba リnk」(なばりんく) 開所式・調印式 (6/27)

子どもや若者が気軽に立ち寄り、安心して過ごせる居場所「Naba リnk (なばりんく)」が、総合福祉センターふれあい3階に、6月29日オープン。6月27日には、開所式・協定書調印式などがあり、開設費などを助成したB & G財団の菅原理事長、Naba リnk 実行委員会のメンバー、北川市長などが出席しました。

「Naba リnk」は、勉強したり、ゲームで盛り上がったり、何をして過ごすかは自由です。実行委員会会長の生悦住一樹さん(近大高専5年生)は「みんなで話し合ったことが形になって嬉しい。学校に行きたくない子も『Naba リnk になら行ける』と思えるような、子どもたちが安らげる場所になるといいな」と話してくれました。



利用案内

【開所時間】月～土曜日 10:00～20:00 ※土曜日は9月1日から開所

ハラスメントに NO !

「ハラスメント撲滅宣言 なばり」 宣言式 (6/30)

名張市では、市内で暮らし働くすべての人が互いに尊重し合い、だれもが安心して過ごすことができる地域社会を実現するため、6月30日、「ハラスメント撲滅宣言 なばり」の宣言式を行いました。

宣言式には、賛同31団体のうち、名張商工会議所の亀井会長、地域づくり代表者会議の古谷会長などが参加し、賛同書を読み上げました。北川市長は「相手を尊重するという当たり前のことを大切にして、市民と一緒に徹底していきたい」と訴えかけました。

誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる社会を目指し、市全体で一丸となってハラスメントの撲滅に取り組んでいきましょう。



市では引き続き、「ハラスメント撲滅宣言」に賛同いただける団体・事業者を募集しています。団体・事業者名は市HPに掲載しています。